

しおさいデイサービスセンターだより

Shiosai Day-Service Center News

認知症について（第1回目）

生活相談員の仕事をしていますと表題の「認知症」についての質問なども時々あります。また利用者さんからも「もう認知症だからわからない・・・」とか「認知症になったわあ」などの話しなどを聞きます。そこで今回は「認知症」について何回かに分けて説明していこうと思います。

【認知症とは】

認知症は、何らかの病気や障害などの様々な原因によって記憶や判断などを行う脳の機能（認知機能）が低下し、日常生活や仕事に支障をきたすようになった状態のことをいいます。

認知症の中で最も多くみられるのはアルツハイマー型認知症で、脳の神経細胞の変性により、脳が少しずつ委縮していきます。

最近では、生活や仕事に支障をきたさないような軽い症状でも軽度認知障害（MCI：Mild Cognitive Impairment）など早期診断がなされるようになりました。

家族の中で身内の方がそのような状況になると「こんなこともわからないのか」「情けない、あんなにしっかりしていたのに・・・」など悲観的になったり怒りの感情が湧く方もいらっしゃると思いますが、先に書いたように記憶や判断をつかさどる脳が委縮しているのです。CT画像をみると明らかに健常な方の脳と違いがわかります。

そのような家族の方を責めることは良策ではありません。ご本人には自分が「認知症」であることさえ理解できていないのですから。

もし、家族様、長目地区の方で不安に思うようなことがあればいつでもご相談ください。私たちの仕事は介護認定を受けた方をお世話することも仕事ですが、家族様などの不安軽減や負担軽減を考えるのも大事な仕事です。

次回は加齢によるもの忘れと MCI、認知症の違いについて書きたいと思います。

*参考資料 東京慈恵会医科大学 繁田雅弘 先生



介護のことなどで、お困りのことなどございましたら、しおさいまでお問い合わせください。

担当 しおさいデイサービスセンター 生活相談員 小手川 哲夫

連絡先 85-0539